

高山長五郎氏傳

一名 養蚕改良高山社來歴

復刊版

高山長五郎氏傳

一名 養蚕改良高山社來歴

群馬地域文化振興会

高山長五郎傳一名養蠶改良高山社來歴

凡 例

一本書題シテ「高山長五郎傳一名養蠶改良高山社來歴」ト云フ、コレ創業ノ殊功ヲ奏シタル故人高山長五郎ノ功勞ヲ序シ、併セテ守成ノ難業ヲ保全擴張セル現任正副社長ノ小傳ヲ列記シテ、高山社ノ發端ヨリ今日ニ至ル來歴ヲ明ニセントスルニアリ

一挿入セシ故人高山長五郎君ノ寫眞ハ、君ガ年齡五十有二ノ時ニ撮影シタル所ノモノニシテ、現社長町田菊次郎君ノ肖像ハ、明治二十二年ニ於テ撮影シタルモノナリ

一書中、縣名郡名ノ重複スル所往々之アリ、コレ縣郡町村ノ明瞭ヲ欲シテ其煩雜ヲ厭ハザリシニヨル

一書中、地方長官ヲ呼ンデ縣令ト云フ所アリ、コレ其當時ノ稱呼ニ從ヒタルモノナリ、敢テ他意アルニアラズ

一地方別社員姓名ハ明治二十七年上半期ニ於ケル現在ナリ

一卷中、在群馬縣社員ノ掲載ヲ見合セタルハ、高山社ガ如何ニ日本全國ニ勢力アルカヲ示サント希圖シタレバナリ、其群馬縣ニ於ケル勢力ノ如キハ今更云フノ必要ナキニヨル

一「養蠶改良高山社規則」ハ明治二十七年三月ヲ以テ改正シタル所ノモノナリ

一本書編纂ニ際シ高山社員中辱知ノ輩數氏ガ、參考トシテ材料ヲ供シタル其勞沒スヘカラザル所ノモノアリ、記シテ茲ニ其恩ヲ謝ス

明治二十七年

月

著

者

識

高山長五郎傳一名養蠶改良高山社來歴目次

第一章	家系	一頁
第二章	高山村	二頁
第三章	弱年	二頁
第四章	家系相續	三頁
第五章	養蠶事業ノ辛苦	五頁
第六章	養蠶事業ノ辛苦ニ伴ヒシ辛苦	一三頁
第七章	辛苦ノ結果及ビ晩年	一八頁
第八章	公共事業	二二頁
第九章	開墾ノ先鞭	二八頁
第十章	友愛ノ至情	二九頁

第十一章	慈善的行爲……………	三〇頁
第十二章	賞典……………	三一頁
第十三章	君逝テ芳名愈々高シ……………	三二頁
第十四章	町田菊次郎……………	四一頁
第十五章	高山武十郎……………	五二頁
第十六章	高橋茂太郎……………	五七頁
第十七章	高山社ハ藤岡町ノ高山社ニ非ズシテ日本國ノ高山社ナリ……………	六〇頁
第十八章	養蠶改良高山社規則……………	一六頁

故社長高山五郎之肖像



現社長野田菊次郎君之肖像



高山長五郎傳一名養蠶改良高山社來歷

新井茂平編纂

第一章 家系

高山重禮通稱ハ長五郎、群馬縣綠野郡高山村現今ノ美九里村大字高山村ノ人ナリ、姓ハ平氏、其先、高山遠江守滿重ヨリ出ツ、永祿年間、滿重、管領上杉憲政ニ從ヒテ高山城ニ居リ、其子、右馬助重正ニ至リ、初メテ武田氏ニ隸シ、後、小田原北條氏ニ屬ス、北條氏亡ヒテ後、遂ニ高山村ニ住ス、重禮ニ至リ凡ソ十五世、其間邑ノ豪族タリ、重禮ハ寅三ノ次男ニシテ母ヲ「サヨ」ト云フ、天保元年四月十七日ヲ以テ生ル

第二章 高山村

高山村ハ綠野郡ノ西南部、御荷鉾山ノ東北五里ノ所ニ在リ、戸數大凡八十戸ノ一小村落ニシテ、三方ハ山岳ヲ以テ圍繞シ、唯タ僅カニ東部ノ一方ヲ開ケリ、君ガ邸宅ハ村落ノ東部ニ位シテ南面ス、其結構タル、前面ハ切り石ヲ疊ミ上ゲテ基礎ヲ高フシ、背後ニ山ヲ負ヒ、左右ハ桑園ヲ挾ンテ建築シタル大厦ナリ、更ニ前面石垣ノ下、道路ニ沿フテ潺湲タル溪流アリ、名ケテ三名川ト云フ、蓋シ山水靈秀ノ氣ノ鍾マル所ナリ

第三章 弱年

君、弱年ニシテ慈母ヲ喪ヒ、嚴父ト祖母ノ訓育スル所トナル、嚴父ハ戸田藩士ニシテ學問技藝ニ長セリ、故ニ君カ讀ミ書キ十露盤ノ藝術ハ、夙ニ

近隣ノ子弟ト俱ニ嚴父ノ教育スル所トナレリ、祖母ハ志、養蠶事業ニ篤ク、期節來レハ常ニ君ヲ擁シテ斯業ニ從事シ、俱ニ厭倦ノ狀ヲ現ハシタルコトナシト云フ、他日君カ斯業ヲ大成スルニ至リタルハ、蓋シ其基因茲ニ發セシナラン

第四章 家系相續

君カ四世ノ祖ハ、其名、君ト等シクシテ長五郎ト云ヒ、財産家ヲ以テ近隣ニ聞エタリ、嗣子勇右衛門、豪放不羈、公共ニモ私事ニモ、金錢ヲ消費スルコト殆ント塵埃ヲ捨ルカ如シ、故ニ名聲ハ日ニ月ニ四隣ニ高マリ、誰一人ト雖モ門前ヲ乘馬スルモノナク、又理カ非ナリト雖モ抵抗ヲ試ミルモノナキニ至レリ、氏カ勢力名聲ノ此ノ如ク隆ナルニモ拘ハラス、不幸ニモ男子ノ以テ氏ヲ相續スヘキモノナシ、晩年ニ至リ氏竊カニ謂ラク